



このリーフレットは、宗像市からの委託事業(日の里地区の空き店舗を活用した地域活動拠点の可能性調査業務)の一環として制作・配布されています。

HINOSATO

next50

『ひのさとNEXT50通稿』創刊号 2018年4月15日発行



次の50年に向けて 日の里をバージョンアップする「HINOSATO NEXT50」

日の里、これまでの50年

日の里団地のまちびらきは、1971年。2021年には、50周年を迎えることになります。半世紀前のまちびらき当初には、北九州市や福岡市から多くの若い核家族が、ピカピカの日の里に引っ越してきました。

当時の日の里団地の特徴は、一言でいうと「ベッドタウン」。都会で働くお父さんが帰ってきて寝るためのまち。子どもがすくすくと育つまち。そんなまちを実現するために、当時の若いお母さんたちは、店が足りないできたてのまちで生協活動などに取り組みながら、生活環境を整えていきました。

さらに、まちびらきから10年後に始まった日の里まつり。生まれたばかりのコミュニティの力を結集し、日の里のシンボルマークが染められた

おそろいのハッピー、日の里音頭、各団目の神輿がつくれ、団結力を高めるきっかけとなりました。

ところが現在は、住民の高齢化、児童の減少、空き店舗の増加などの課題がしばしば話題になります。確かに、昔の賑わいを知る住民から見ると、現在の日の里はすこしさみしく感じられるのかもしれません。

これからの50年

しかし、このまま日の里が衰退し消えてしまうわけでは、決してありません。特にここ数年の間に、日の里での暮らしの魅力を高めるような、新しい活動や担い手が登場しています。古い住宅をワークスペースに活用している芸術家、農園併設の新しいカフェ、DIYで再生された団地の住戸。そして、ずっと閉じたままの駅前店舗を

再生したCoCokaraひのさと。日の里100周年までの次の50年は、きっとこれまでは見られなかったような新しい魅力を、加えていくことになるでしょう。

日の里の暮らしをバージョンアップしよう！

そこでまちびらきから50周年となる2021年に向けて、次世代の日の里の魅力をみんなで考え、新たな担い手と共に生み出すプロジェクト、『HINOSATO NEXT50』が始まります。日の里を未来へと継承していくために今必要なのは、このまちを、より魅力的な暮らしの場へとバージョンアップすることです。

均質なベッドタウンから、様々な人が集い、多彩なコラボレーションが生まれるまちへ。車中心の道路から、人も居心地の良い通りへ。通勤者ば

かりの住宅地から、働きながら暮らせるスタートアップのしきみを持ったミックスタウンへ。閉じたニュータウンから、農業や伝統文化などをとおして周辺の地域と連携する開かれたまちへ。

はたして、100年後の日の里の人々は、どんな暮らしを楽しんでいるのでしょうか？

『ひのさとNEXT50通稿』創刊号
発行日 2018年4月15日
発行人 福岡県(日の里サードベース代表/九州大学 人間環境学研究院)
制作 ストックデザインラボ(協力責任:山下真)
協力 日の里地区コミュニティ運営協議会
CoCokaraひのさと
発行 日の里サーフェース <http://hinosato3b.com/>
住所 福岡県宗像市日の里1丁目22-8 山下アパート5号室
本誌に関するお問い合わせ hinosatonex50@gmail.com

33°47'35"N, 130°32'2"E HINO SATO 3RD BASE

みんなの秘密基地 日の里サードベース 活動レポート

昨年7月に、1丁目の空き店舗のシャッターを開けて始まった「日の里サードベース」。日の里育ちのまちづくり研究者 柴田建さん(九州大学)と、空き空間再生の専門家 北壽剛司さん(ストックデザインラボ)がタッグを組んで始めた、「みんなの秘密基地」をテーマとするコミュニティ活動の拠点です。最初は、ガラとした空間の入り口に、シンボルマークをスプレーで描いただけ。仲間を徐々に増やしながら、みんなが居心地よい空間になるように、少しずつ部屋を仕上げていきました。

しかし、今でも看板は出していない。そのため、前の歩道を通り過ぎる人は、「果たしてここはなんの店だろう?」と不思議そうに覗き込んでいきます。果てには、向かいの床屋さんに「高齢者を騙す悪徳業者かも」といった噂まで流れる始末。わかりやすい看板を出せなかったのは、柴田さんもこの場所が何なのか分からなかった、と言うより、敢えて決めずに始めたからでした。始める前は「放課後に子どもたちが遊びに来てくれるなら、駄菓子屋を始めようか」「昼間に高齢者が茶飲み話に

集ってくれるなら、美味しいお茶の淹れ方を練習しなくちゃ」なんてことを考えていました。

結果的には、日の里で何かを始めたい大人たちが次々とやってきて、アイデアをみんなで練り、チャレンジする場へと育っていきました。「DIYのリノベーションをやってみよう」「子どもたちと一緒に何かを作って、販売するまでを経験させてあげよう」「宗像の歴史や自然が遊びながら学べるボードゲームを作りたい」「大通りを盛り上げたい」「子ども食堂を始めたい」「子どもたちにギターを

教えて音楽のまちにしたい」など、本当にたくさんの想いが集まりました。

そこで、サードベースの部屋作り自体をイベントにしたり、ボードゲーム開発のためにまずは色々なゲームで遊んでみる「日の里ゲーム部」を始めたり。活動を続けていると、ギター教室は、毎回満員の盛況で、大通りの活性化を考える飲み会には、向かいの床屋さんも参加してくれて無事誤解を解くこともできました。

こうしてサードベースがどんな場所なのか、どこを

目指しているのか、1年をかけてやっと見えてきたのです。今回は、3つの活動を紹介したいと思います。

日の里サードベース <http://hinosato3b.com/>
代表:柴田建(九州大学 人間環境学研究院 助教)
1986年、福岡県中津市。高校の位置地がまちづくりやエリアマネジメントの研究・実践を行なっている。
ディレクター:北壽剛司(ストックデザインラボ 代表)
1980年、福岡市生まれ。「不遇空間を暮らしやすくするクリエイティブ」を各分野に、活動のフィールドを多岐にわたる場再生する活動でブランドイメージを築いている。
福岡県産物博覧会日の里1422-8 山アアパート5号室



壁づくりの様子



DIY後のサードベース



DIY後

居心地をつくる 一壁・床 みんなでDIYー サードベース単独プロジェクト「日の里DIYサークル」

サードベースは、もともと店舗付きの住宅として使われ、以前には、いくつかの商店が並んでいた場所です。「昔はこんなお店があったよね」という住民の愛着が詰まった場所をもう一度盛り上げるべく、みんなの手でゼロからの場づくりが始まりました。

内装のDIYは、「みんなでつくるサードベース」をテーマにストックデザインラボの北壽さんが中心となって行い、全4回リレーワークショップ形式の誰でも参加可能な形で開催しました。集まったのは、親子や学生、店舗経営者など幅広い年代の「日の里を盛り上げたい」という気持ちの住民やまちづ

くりに関心のある人たち。

初回はまず、空間のデザインを考えるにあたり、参加者に雑誌を切り抜いてもらい、平面図に開取りや仕上げのイメージをスケッチしていきます。こうして誰でも楽しめる内容にすることで、サードベースのコンセプトを考える部分に参加してもらい、愛着をもってもらえたらという想いをこめました。

そしていよいよ2回目からは、空間デザインのイメージをもとに実際にサードベースでのDIYに入り、空間をつくっていきます。ワークショップ当日は、軍手姿で8人ほどが集まってくれました。あり

がたいことに、DIYにあたり地元工務店さんからは、木材などの材料を無償で提供いただきました。早速、床に貼られていたシート剥がしから始まり、参加者全員でハンマーとヘラを使い、地道に手作業を進めていましたが、見かねた内装職人さんが、床剥がし専用の機械を持ってきてくれるという嬉しい出来事が起こり、おかげであっという間に床剥がしが完了しました。その午後には、地元工務店さんから譲ってもらった廃材を使ってパッチワーク状に壁板を貼り付けていきます。そこで、北壽さんから「廃材をカットせずにそのまま貼り付けよう」というアイデアが出されました。DIYならではのライブ感を楽しみつつ、なりゆきで貼り付けたあとは、その場にいた参加者の感性に委ねて貼ってもらい、さらに棚を設置して本を置いてみると気配が感じられる空間になってきました。

3回目に刷毛やローラーで壁と天井を塗装し、白い空間が完成。最終回は、土間の上に一部設置したフローリング作りです。土足で上されるパブリックな印象の土間に対して、部分的に床や本棚を設置することで、プライベート感のある中間領域をつくる目的です。まずは土台となる枠を作り、合板を貼って、地元工務店さんからいただいた板の無垢の床材を貼っていきます。しかし板を切りそろえていく過程で、あまりに木が硬く、思うように

進まなかったところ、参加者の親御さんから電動ノコギリをお借りすることができました。前回の床シート剥がしの際と同様、それぞれができる範囲で知恵や力、道具を持ち寄って少しずつ完成していく様子が印象的でした。最後にテーブルをセットすると、素敵なワークスペースに。

こうして4ヶ月をかけて、広い土間と白い壁に木のラックやテーブルが印象的な空間が完成しました。このDIYに携わったメンバーは、いままサードベースと一緒に盛り上げてくれている仲間となっています。今後この場所が、日の里を盛り上げていく拠点として大いに活用されることを願っています。

日の里DIYサークル スケジュール

- 8/26 **空間デザイン**
開取りなどのデザインイラストで切り
- 9/10 **床づくり** 床のシート剥がし、型枠づくり
- 10/ 8 **壁づくり** 刷毛やローラーを使い壁塗装
- 11/ 5 **デコレーション**
床づくり、インテリアアイデア



まちを変える仲間たちと オリジナルTシャツづくり

日の里学園+サードベース共同プロジェクト「日の里盛り上げ隊」

日の里を子どもたち自身の手で活性化していく、日の里盛り上げ隊プロジェクトの一環で、8月開催の「日の里まつり」に向けて、日の里学園(日の里東小6年生・西小6年生・日の里中学校美術部)の子どもたちと一緒にオリジナルデザインのTシャツ・バッグを作り、実際に販売するまでの取り組みを行いました。

6月下旬、日の里東小・西小それぞれで、子どもたちが日の里の好きな場所・イベント・シンボルを挙げて、手書きでデザインしました。選ばれたのは「このみ山」「日の里学園の笑顔」「自然公園の桜」「ひのたん」「ユリクスのプラネタリウム」など、子どもたちの思い描く日の里。そして東小・西小の2017年版の2種類が完成。オール日の里版も日の里中学校の美術部の生徒がデザインしてくれました。デザイン後は、印刷も子どもたちが担当。シルクスクリーン技法を用い、ひとつの版から1枚1枚手刷りして見本のTシャツとトートバッグが完成しました。その後、希望する親子にコミュニティセンターに集まってもらい、販売用のシャツとバッグを手刷りでひたすら大量に印刷。さらにサードベースでは、日の里まつりで用いる屋台も子どもたちと一

緒に制作しました。

そしていよいよ、8月19日(土)20日(日)のまつり当日。一緒に取り組んできた東・西小の6年生たちは、作ったTシャツを着て説明してくれる子、大きな声で呼び込みをしてくれる子、見本のバッグや手書きのチラシを持って声を掛けて回ってくれる子など、手作したグッズをそれぞれのやり方で一生懸命に販売していました。

サードベースとして出店販売したのは、Tシャツ1,500円、バッグ1,000円の2種類と3バターのデザイン。手刷りゆかにカスレしてしまったものもありましたが、カスレ具合で300円引き、500円引き、1,000円引きと値付けをしました。そこで、子どもたちにデザイン指導してくれたデザイナーの河村美季さんが「てへべろTシャツ がんばってつくったのだけ…カスレ有り500円から」というかわいらしいポップをつくってくれたおかげで、むしろ人気商品に。2日目夕方には、500円に値引きをのせて販売し、夜は人の集まるCoCokaraひのさと前に移動して最後の追い込み。そうした子どもたちの頑張りによって、作ったグッズは見事、まつり当日に売り切れになりました。



日の里学園の子どもたちがTシャツのデザインを話し合っている様子

当初は意図していませんでしたが、このプロジェクトを通し子どもたちが、様々な分野のプロフェッショナルの仕事を経験できる得難い機会となりました。東・西小、中学校でのTシャツのデザイン指導は、デザイナーの谷口竜平さんと河村美季さん。屋台を一緒に作ってくれたのは、空間デザイナーの北野剛司さん。ポップ作りは、ライター森千鶴子さん、デザイナーの松永倫明さん。まつり当日に、販売経験のない私たちを導いてくれたのは、焼き菓子店conomiの桑野たえこさん。他にも多くの大人と子どもたちとの協働が起きていました。

この活動の目的の一つは、子どもたちが、グッズのデザインから制作・販売までを行うことを通して、日の里まつりの活性化に主体的に取り組んでもらうことにあります。さらにこの子どもたちが、まつりの販売会場で売り子として大きな声で呼びかけたり、あるいは帰宅後、家族に自慢げに話したりすることを通して、地域の人が日の里のアイデンティティについて改めて考えるきっかけになることも目指しています。今日、子どもたちの中に、自ら地域の担い手として、まちを盛り上げる活動への意欲が芽生えはじめていると感じます。



日の里まつり当日の日の里盛り上げ隊の出陣の様子

日の里盛り上げ隊2017 スケジュール

- 6/29 東・西小にて、6年生児童による
- 7/ 3 デザイン製作(総合的学習)
- 7/13 東・西小にて、6年生児童による「シルクスクリーン印刷(実習用)」
- 7/20 日の里中学校美術部によるデザイン製作
- 7/30 コミュニティで、東・西小6年生親子による「Tシャツ・バッグ印刷(商品用)」。サードベースで、販売用屋台の制作とポップ作り
- 8/19 日の里まつり当日、子どもたちがつくった屋台を使って販売。追加注文を合わせて、Tシャツ213枚、バッグ122個を販売
- 9/1~ オール日の里TシャツをCoCokaraひのさとで販売中(2018年夏にも企画予定)

郊外での暮らしについて考える



CoCokaraひのさと+サードベース 共同プロジェクト「郊外暮らしの再生塾」

郊外暮らしの再生塾2017 スケジュール

- 9/27 津屋崎ランチ 山口覚氏「将来の郊外に、暮らしの場としての魅力はあるのか？」
- 10/18 吉浦ビルオーナー 慶徳株式会社 岡井川村 村長 吉浦隆紀氏「DIYリビングでクリエイターが笑い、サードベースで地域をつなげる」
- 11/29 東北ニュータウン住宅リノベーション協議会 西上孔雄氏「東北ニュータウンでの地域の再生と再建でリノベーションの試み」
- 12/20 九州大学のアーバンデザイナー 黒瀬武史氏「デトロイトにおける創造的な空き地の活用と都市計画の役割」
- 1/17 片山 健太+弟子夫妻「坂の街の空き家をもとに、若者の居場所へ〜こども目線でつなげたい場づくり〜」
- 2/21 プランディングディレクター・デザイナー 谷口竜平氏「祖父の製菓と里山をシェアで受け継ぐ」
- 3/10 公開再生塾 第1回〜6回までの議論をもとに、塾生が郊外暮らし再生のアイデアを語り、地域住民に向け発表

昨年9月から「郊外暮らしの再生塾@日の里ニュータウン」という全7回のシリーズワークショップを行ってきました。

「空き家再生・DIYリビング」地域居場所・空間のシェア・エリア再ブランディングなどのテーマを軸に、先駆的な取り組みを行っている担い手を日本各地からゲストとして招く一方で、このテーマに関心ある実務家や学生、暮らしの魅力を高めたい地域住民らを塾生として募り、共に郊外暮らしのこれからを考えてきました。毎回部屋いっぱいテーブルを囲んで、熱い意見が交わされていたのが忘れられません。

この再生塾は、単に専門家の話を聴講する場ではなく、積極的なグループ対話を通してこれまでの常識を疑い、シェアの時代の新しい郊外像と一緒に創造していく試みです。始めにゲストからの導入があり、塾生同士のグループ対話、さらにゲストからの話題提供のあと、再度参加者全員のグループ対話の時間という流れでゲストと塾生との間に数往復のやりとりが生まれるという独自のスタイルをとっています。

初回のゲストは、再生塾のプログラムディレク

ターでもある津屋崎ランチの山口覚さん。第2回は、家賃滞納だらけの古い集合住宅をDIY賃貸でクリエイターの集まる場に再生した吉浦隆紀さん。第3回は、日の里とほぼ同時期に大阪で開発された東北ニュータウンで、地元工務店の3代目を務めながら、住宅リノベーション協議会を立ち上げ、エリアとしてのリノベーションにも積極的に取り組んでいる西上孔雄さん。第4回は、アメリカ・デトロイトでのフィールドワークをおこなった九州大学のアーバンデザイナー黒瀬武史さん。第5回は、まちづくり活動のなかで常に主要なテーマである「子ども」の居場所について活動されている片山健太・弟子ご夫妻。第6回は、宗像エリアでのまちづくりの仕掛け人とも言える若き担い手、谷口竜平さんなど、多様なフィールドで活躍されるゲストにお越しいただきました。

この再生塾には、平日の昼間という時間帯にも関わらず、毎回定員を超える30名ほどの人たちに塾生として集まっていただきました。大学生から地域の大先輩まで、世代も立場も多様な人々です。いつも議論を楽しむことを優先してしまい、終了予定時刻を過ぎてしまうこともしばしば。さらに

終了後もゲストに想いをぶつけるシーンが見られ、塾生の意識が次第に高まっていったように思います。こうして毎回それぞれの先駆者の視点から話題が提供され、塾生の目は、より深く暮らしやまちを見ることができるようになっていったのではないのでしょうか。

そして第7回は、再び山口覚さんがファシリテーターを務め、地域の方も広く参加可能な公開発表会を行いました。その場で、塾生からこれまでの再生塾の成果として提案されたのが、「日の里大通りの再生」、「東小前UR団地の活用」、「サードベースのスタートアップ拠点化」、「9丁目でのコミュニティファーム」の4つのアイデア。これまでに再生塾のゲストから学び、刺激を受けて考えてきたことをみんなで盛り込み、魅力的な試案が生まれました。さまざまな立場の参加者がいる中、日の里の将来を考えるワークショップは、過去一番の盛り上がり。

この再生塾で育まれた塾生たちの熱意やゲストとのつながり、そして生まれたアイデアは、これからの「日の里暮らしの編集室」での活動へと発展していきます。



グループ対話中のワンシーン



オマケ: 日常のひとコマ

ボードゲーム部。普段は隠された裏の性格がむき出しに!

日の里暮らしの編集室

始めます。

暮らしの編集室とは

日の里には現在、3つのまちづくり拠点が存在しています。

まずは、生活に密着した地域活動を行う12の各町内会を束ねる「日の里地区コミュニティ運営協議会」。1丁目の丘の上のコミュニティセンターは、まちづくりの中核を担う日の里で最も大切な施設でしょう。一方で、2016年に東郷駅前に誕生した「CoCokaraひのさと」は、住民有志によって運営される、開かれた新しいまちづくり地域拠点です。ここでは、大人たちが放課後に訪れる子どもの勉強を見たり、高齢者向けの健康教室を開いたりしながら、日の里の多くの住民とのつながりを大切にしてきました。3つ目の拠点「日の里サードベース」は、個人ベースで始まった取り組みです。特に、日の里内外のクリエイターや地域活動の担い手たちとのネットワークを築いています。これら3つの拠点を結集し、2018年夏に新しいまちづくり組織「日の里暮らしの編集室」を立ち上げます。

メンバーは、編集長にサードベース代表の柴田建さん、副編集長は、CoCokaraひのさと館長の木村秀子さん。コミュニティ運営協議会と常に連携しながら、今後の3年間で地域内外のより多くの人たちを楽しく巻き込み、ワークショップや社会実験により、まちなな魅力を探っていきます。

日の里の50年先の魅力的な暮らしを考えていくHINOSATO NEXT50プロジェクト。その実行主体となるまちづくり組織が、「日の里暮らしの編集室」です。

まちづくりの新しいプラットフォーム

日の里暮らしの編集室は、宗像市及び福岡県と連携し、郊外ニュータウン再生のモデル事業としてプロジェクトの実施を目指します。その中で、宗像地区の工務店・不動産会社、カフェや若い女性に人気の雑貨店、あるいは全国規模のハウスメーカー等とも協力しながら、民間活力を活かしたまちづくりに取り組みます。さらに、九州大学、福岡大学、福岡教育大学、九州産業大学、そしていちばん大切な日の里学園などの教育機関とも連携します。そして、日の里住民の方々が、自分や家族の暮らしを魅力的にしていくために、自由に活動していくことを重視していきます。

公共、民間、教育機関、そしてコミュニティ。それぞれのモチベーションや組織体制の違いを超えて協働のまちづくりを実現するために、日の里暮らしの編集室は、誰もが参加しやすいプラットフォームとしての役割を担っていきます。

アイデア集結! 日の里まちづくりシリーズワークショップ

日の里暮らしの編集室では、日の里のみなさんに参加を呼びかける大きなワークショップなどを通して、広くアイデアやビジョンを募っていきたくと思っています。まずは、「東小前のUR団地再生」「日の里大通りの活用」をテーマに、6月よりシリーズワークショップを開催します。ぜひご参加ください。

6月17日(日) 東小前のUR団地再生を考える 場所:東小体育館

今後の予定 7月 日の里大通りの活用を考える 9月 日の里の将来像を考える

日の里暮らしの編集室が考える「4つのアイデア」

昨年度の日の里サードベースの活動から生まれた、日の里の暮らしをバージョンアップするための4つのアイデア。まずは、社会実験や担い手育成を通して、その実現に取り組んでいきます。



社会実験+車歩道リニューアル
日の里大通り

今年2月に日の里の若手経営者を中心に結成された「日の里大通りを盛り上げる会」を担い手に、大通りとその周辺の魅力化に取り組んでいきます。

東郷駅からまっすぐに伸びる片側2車線の幅広い車道は、日の里の一番のシンボルですが、現在、交通量はそれほど多くありません。さらに、あまりにも車中心に設計されたため、歩行者にとって居心地の良い場所にはなっていません。

一方、近年欧米を始め各都市で、車道を減らし歩行者の空間を広げるようなアーバンデザインが注目を集めており、日の里でも、大通りでの社会実験(子どもの遊び場やマルシェ、クリスマスマーケット等)を通して、誰もが過りたくなくなる通りへの再生を目指していきます。



地域拠点へ団地リノベーション
東小前UR団地

5丁目のUR団地のうち東小前の10棟は、昨年11月に全世帯が退去し、現在は仮囲いで立入が禁止されています。今後は、民間事業者による再生が行われることになっています。一定規模の開発となることから、日の里の次の50年を先導していくプロジェクトになることが期待されています。

そのために、まず日の里全体のことを見据えながら、その将来像を住民自身が頭と手で考えていくことが大切になります。リノベーションしてコミュニティカフェや福祉拠点にできないか。東小と連携した日の里東エリアの新たな核となるために必要な機能とは、など。URや事業者の計画概要が固まる前に、住民ワークショップ等を実施しながらコミュニティ独自の提案を行い、再生の事業者決定後は、連携しながらまちづくりに取り組みます。



郊外版スタートアップ拠点
日の里サードベース

昨年7月から日の里サードベースの活動では、何かを始めたい!というアイデアや情熱を持った住民が集まり、そこからさまざまなアクションが生まれてきました。この春からは、「郊外版スタートアップ拠点」をテーマに、さらにその機能を強化していきたいと思っています。

福岡市内の旧大名小「Fukuoka Growth Next」を手本に、日の里サードベースでは、子育てをしながらカフェ・雑貨の製作販売などのコソゴトを始めたい人、退職後にスキルを活かして社会貢献がしたい人、学生だけでなく起業にチャレンジしたい人など、想いを持った人たちが、一歩を踏み出すきっかけの場所となるようチャレンジしていきたいと思っています。



住+農のライフスタイル提案
9丁目コミュニティファーム

コミュニティセンターやCoCokaraひのさとから離れた戸建てエリアにも、気軽に地域の多様な世代の人たちが集うことのできる場が必要です。

昨年の、「自宅近くで友人・地域住民と交流できる場をつくるために、畑を地域でシェアし収穫時にみんなでバーベキューをしたい」という、9丁目在住の大学生からの提案をもとに、現在、9丁目住宅地の中に畑地をお持ちの地主さんに対し、コミュニティファームとしての備用を依頼しています。その近所では、若い世代が建て替えた家も多いため、子どもと高齢者が一緒に手廻りや食に関心が高い人を集めてのおしゃれなイタリア野菜畑やハーブ園など、これから近所同士で相談しながら、農を気軽に楽しめる暮らしを実現していきます。

子どもたちと高齢者がふれあう場がほしい

子育てしながらカフェを開きたい

趣味に没頭できるガレージがほしい

日の里暮らしの編集室

メンバー募集!

日の里で本格的な事業がしたい

会社に行かずサテライトオフィスで仕事したい

これから3年間をかけて、日の里の未来につながるさまざまな取り組みを専門家も交えて行っていきます。しかしいちばん大切なのは、ここで暮らすみなさんがイメージする魅力的な暮らしを実現していくことです。日の里でやってみようアイデアを私たちに伝えてください。そこから、未来につながるアクションが生まれるかもしれません。

お問い合わせは、メールまたはCoCokaraひのさとまでお越しください。 hinosatonext50@gmail.com

